

稲 穂

豊崎小学校 校長室通信
令和2年 6月 5日
第14号 文責 町田晋一

どちらの学校がいい？メダカ？すずめ？…

童謡「めだかの学校」と「雀の学校」の歌詞をご存じでしょうか？この2曲は、作られた時代背景が色濃く表れているのですが、どちらの学校の方が子どもたちにとって良いのでしょうか？ポイントになるのは「誰が生徒か先生か」（めだか）と「むちをふりふり」（雀）になると思います。メダカの学校は生徒も先生も一緒になって取り組む姿勢がうかがえます。雀の学校は先生が一斉に指導している様子がうかがえます。よく聞く意見としては、めだかの学校を学校の理想とする意見として聞きますが、自分は一概にそ

「めだかの学校」
めだかの学校は川の中
そっとのぞいてみてごらん
そっとのぞいてみてごらん
みんなでお遊戯しているよ
めだかの学校のめだか
たち 誰が生徒か先生か
誰が生徒か先生か みんな
で元気に遊んでる

「雀の学校」
ちいちいぱっぱ ちい
ぱっぱ雀の学校の先生
は むちをふりふりちい
ちいぱっぱ 生徒の雀は
輪になって お口をそろ
えてちいぱっぱ まだま
だいけないちいぱっぱ
も一度一緒にちいぱっぱ
ちいちいぱっぱ ちいぱ
っぱ

うとも言えないと思っています。

子どもたちの自主性を育て、職員が自然に支援する。そんな学校を本校も目指してはいますが、それだけでは学校の役割を果たせないように思います。やはり、子どもたちと向き合い、何が正しいのか？どうすればいいのか？子どもたちの意見を聞きながら、先生がリードしたり、任せてみたりという場面も必要だと思うのです。要は、学習内容やその場面によって子どもとの接し方(スタイル)を変えられることが大切なのだと思います。一人一人の児童に応じて、学習内容に応じて、その時の状況に応じて…。変化を感じ取り、その時に一番適切と思える対応をとることが求められているのだと思います。まずは自分自身が変化に対応できるよう、状況を把握し、子どもたちにとってより良い取り組みとなるよう、日々努力していきたいと思います。

コロナウイルスから学んだこと…

学校が再開して一ヶ月が経とうとしています。子どもたちも、毎日マスクをしながら懸命に学習に取り組んでいます。そこで、この生活の状況の中、コロナウイルスから学んだことを書き出してみたいと思います。

- ① 発症者が出た時の対応…他の非常事態でも役に立つ
- ② 職員、ご家庭への伝達方法…わかりやすく、簡潔に
- ③ 情報の発信、受信の理解度…意図を伝える難しさ
- ④ 人と関わることの大切さ…支え合う経験の大切さ
- ⑤ 相手を思いやる難しさ…自分の都合で考えてしまいがち

ピンチをチャンスに変えていきたいですね。

